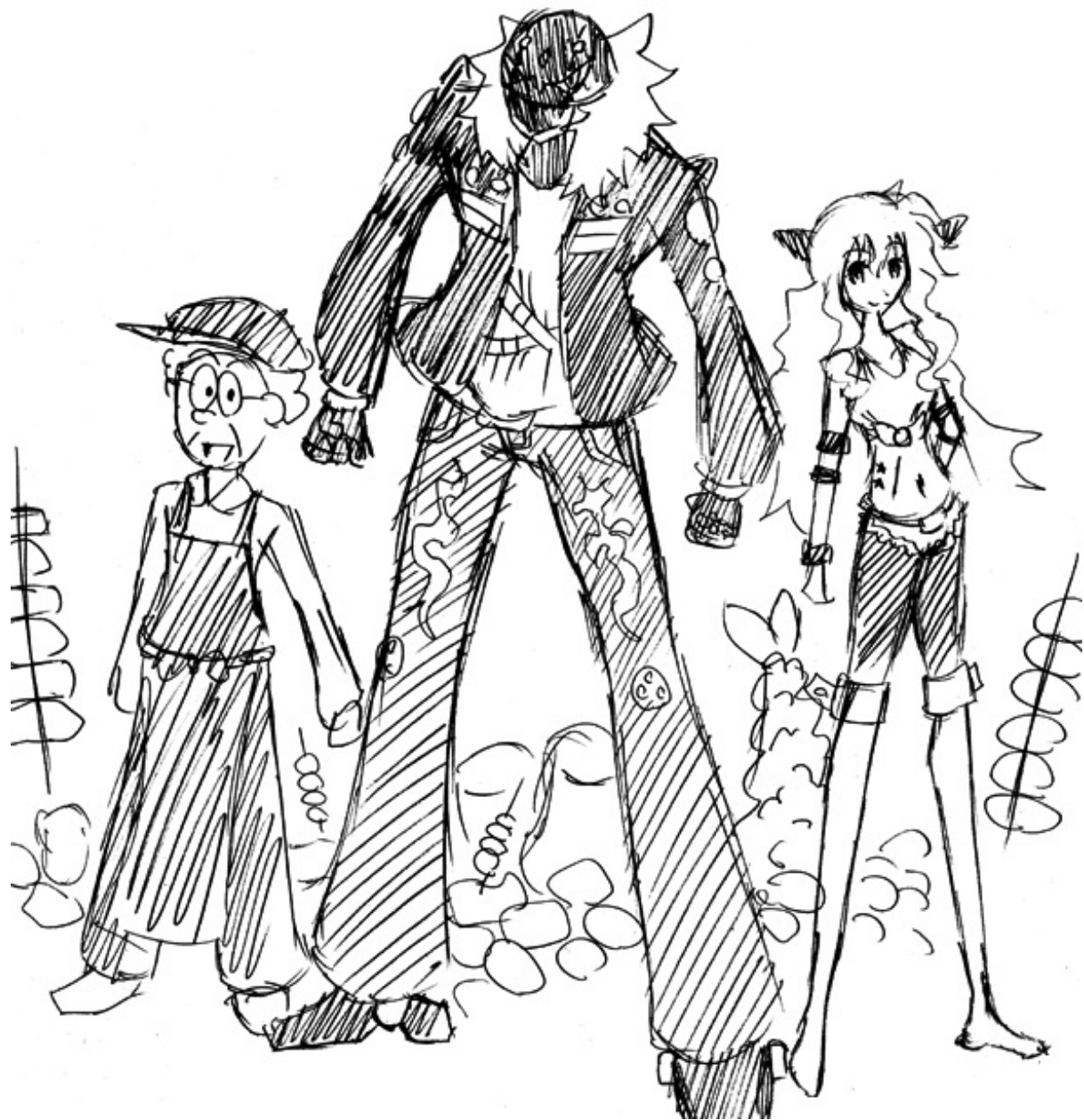
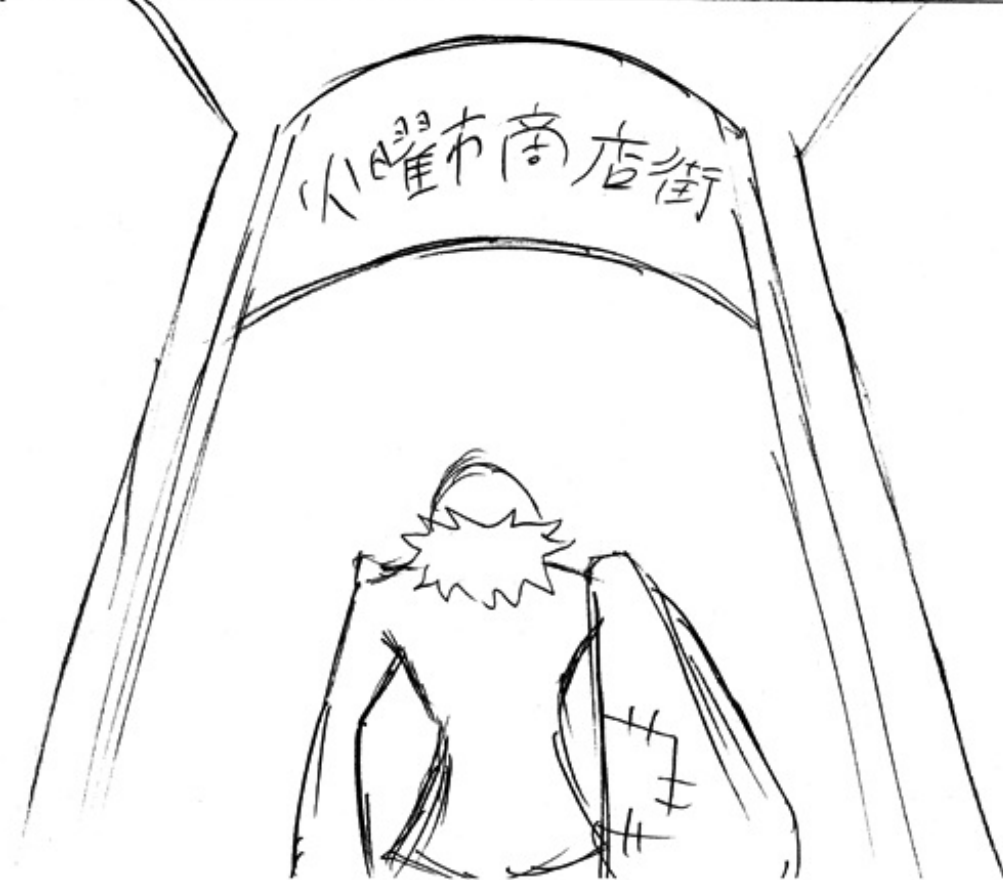
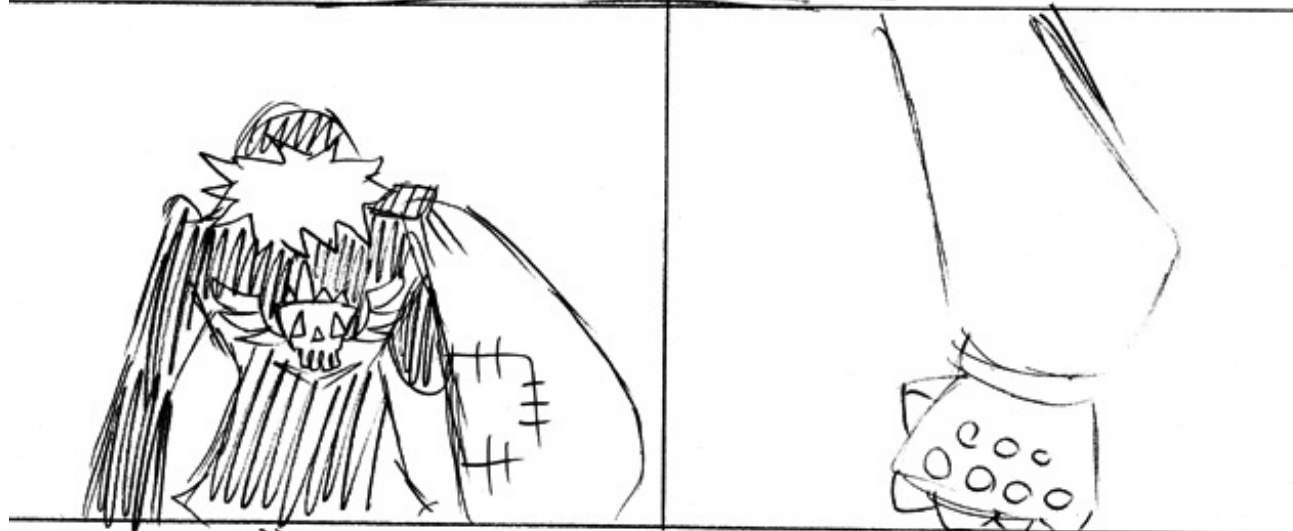


# デカ戦士

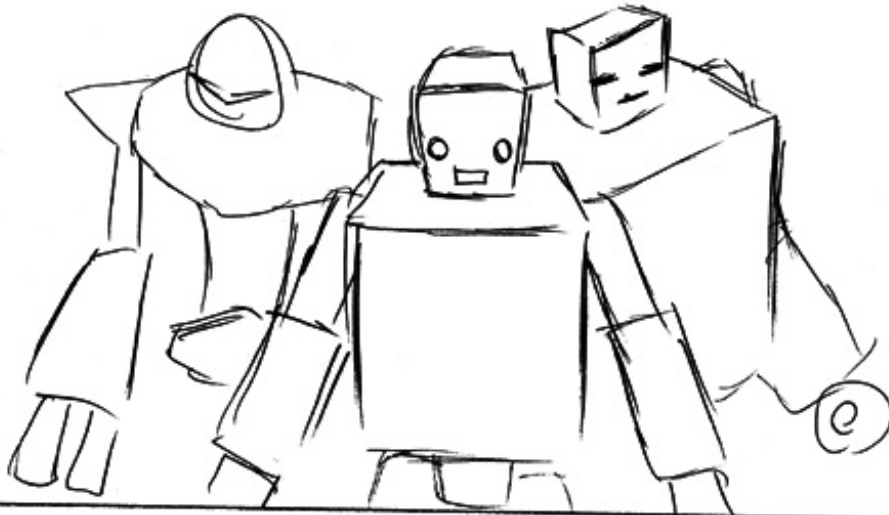




遠い未来…人間は  
人と同等の感覚を持つ  
コミュニケーションアンドロイド

# General All sence Imitable And roid

通称「ガイアロイド」と  
共存していた

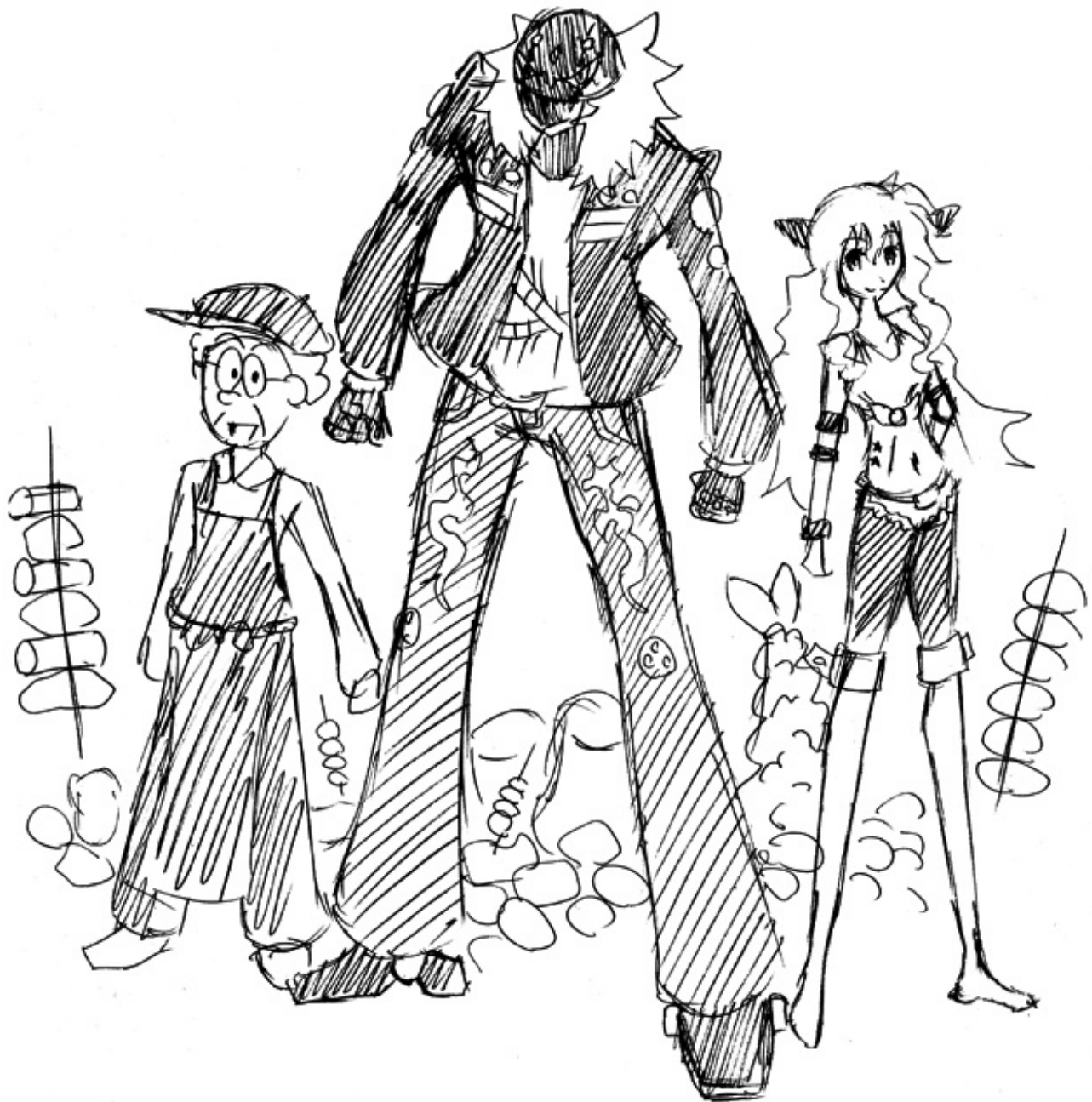


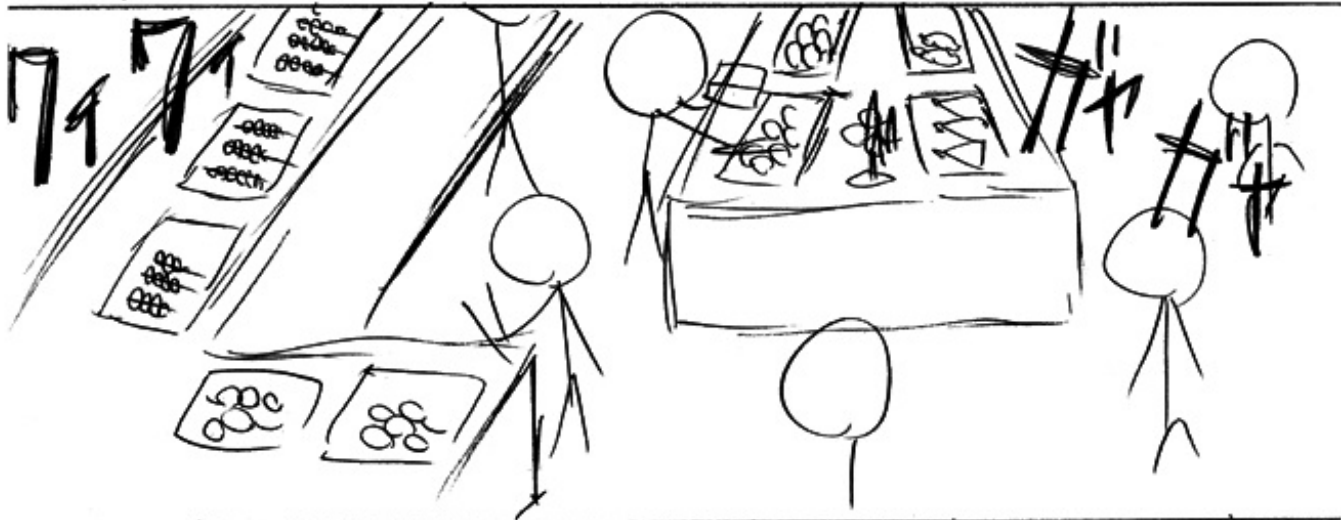
彼らは人間と同じように  
においをかぎ  
温かさや冷たさを感じ…  
そして食べ物を食べ  
味を感じることでできる彼らは…

人々の生活へと  
普及していったのだった…!!!



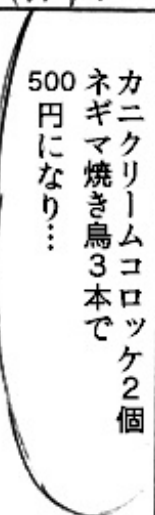
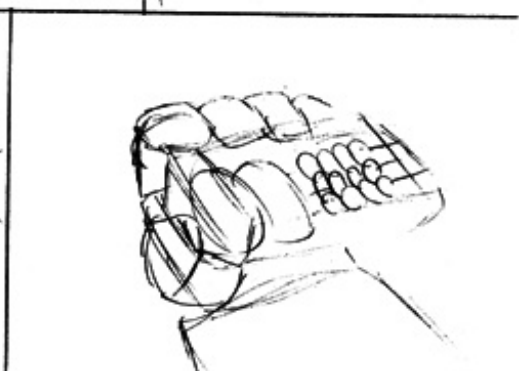
# デカ戦士









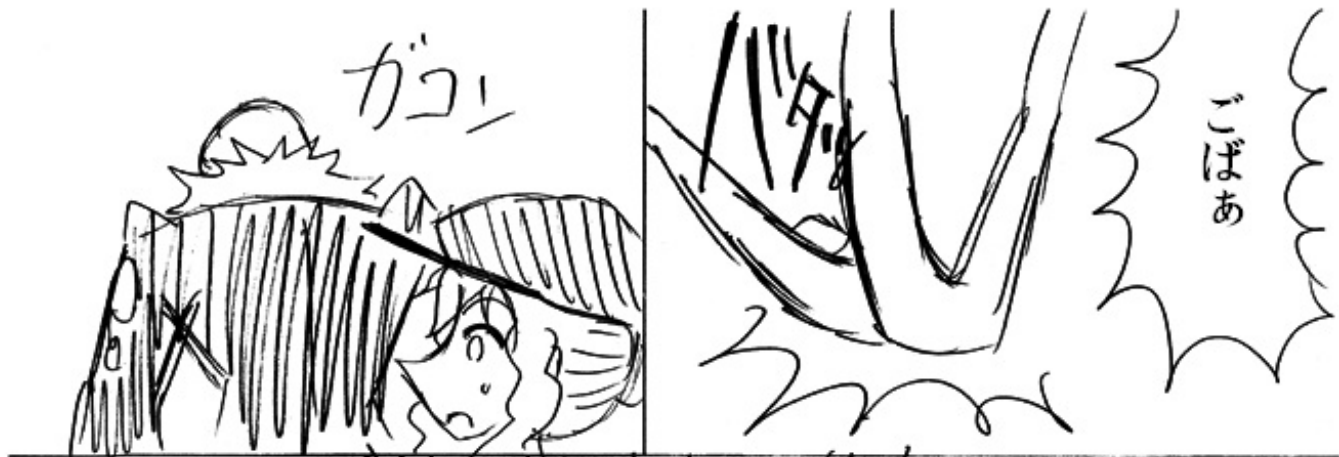












ガコッ

ごぼあ



文句があるなら食ってから言え!!!

テメエ 食ってもいねエのに 店にイチャモン 付けてんじゃねエよ!!



うわああああん ママッツ!!!



お前…僕を 殴ったな

パパにも 殴られなかった この僕を…



サハ… サハ…



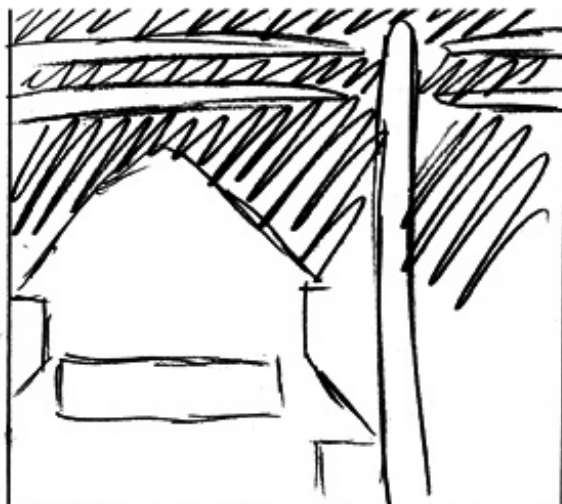
カッ… カッコ良い…

フン!

スゲー パンチ一発で 倒した…



その夜…



はいカニクリーム  
コロツケ

コトツ

おお

なあ本当に  
全部食って  
いいんだよな!!

もちろん  
娘を助けてくれた  
お礼だよ

かあ  
ありがとう

ハフツ

そんじゃありがたく  
いただくぜ!!



パレルあなたって  
本当食べるのが  
好きなのね!

ああ  
食うことこそ  
生きるってのを  
実感できるからな!

しかし  
本当ひさしぶり  
だぜ…

オレみてエな  
野良ガイアロイドを  
泊めてくれて

メシまで  
おごってくれる  
親切な人間はよ!



なあパレル君  
一つ聞きたいん  
だが…

ん？  
だ？

パレル君って  
もしかして…

元々どこかの  
大企業の  
ガイアロイド  
だったのかい？

大企業のもつて…  
どういうこと

彼を初めて  
見た時から  
そう思っていたんだ

君の大きな体や  
あのパワー…  
民間用の規定よりずっと  
上だ…

規定以上の能力を  
持ったガイアロイドは  
企業用のしかないからね

君のように  
優れた能力を持った  
ガイアロイドが…

一体どうして  
野良に…

ああついやあ  
す、すまない

別に言えない  
理由があるなら  
言わなくてもいいよ

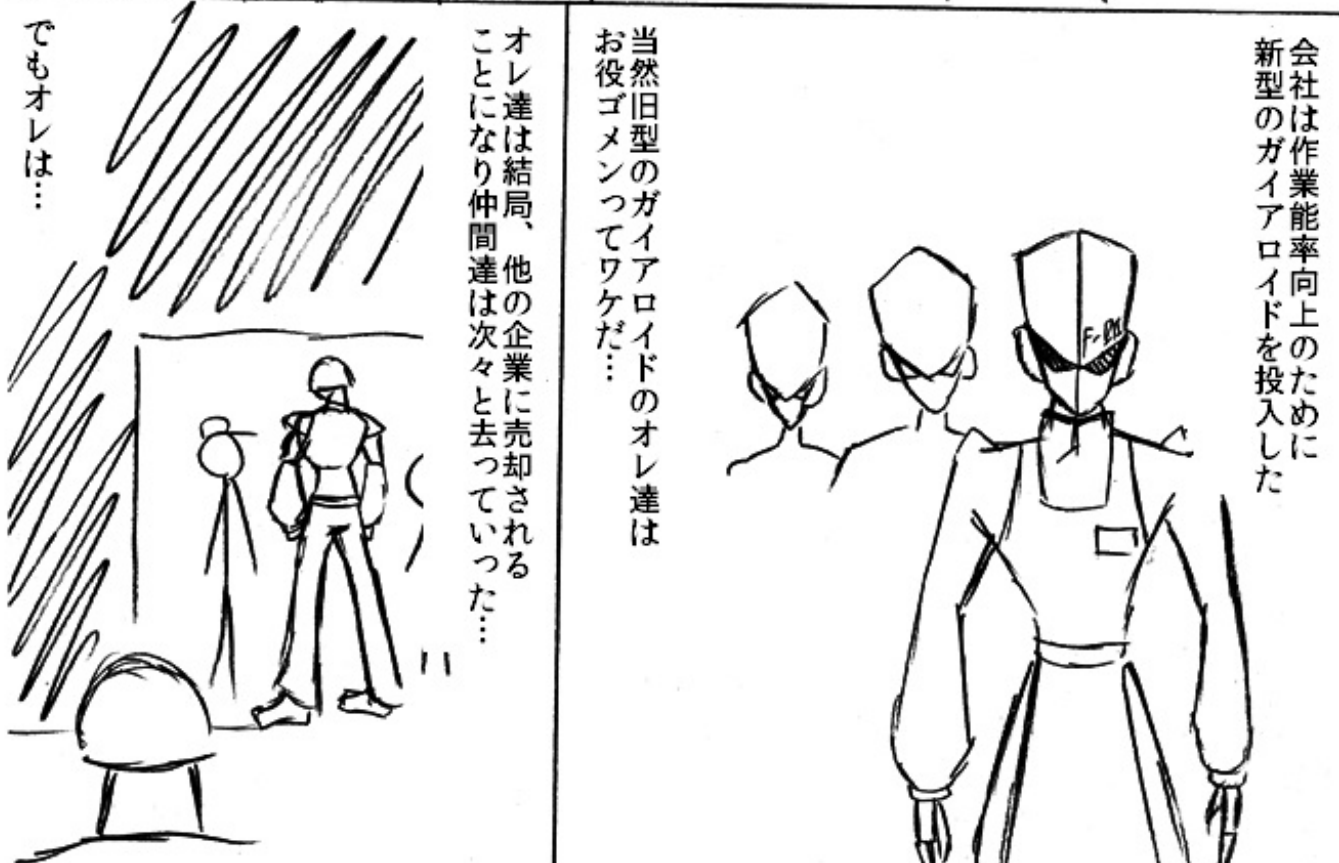
私としたことが  
デリカシーのない  
ことを聞いて  
本当…

ん？

ガヤ  
ガヤ



オレを救ってくれた恩人なんだ...



会社は作業能率向上のために新型のガイアロイドを投入した

オレ達は結局、他の企業に売却されることになり仲間達は次々と去っていった...

当然旧型のガイアロイドのオレ達はお役ゴメンってワケだ...

でもオレは...





うちは3台で十分だよ  
4台も必要ないよ

はあ...

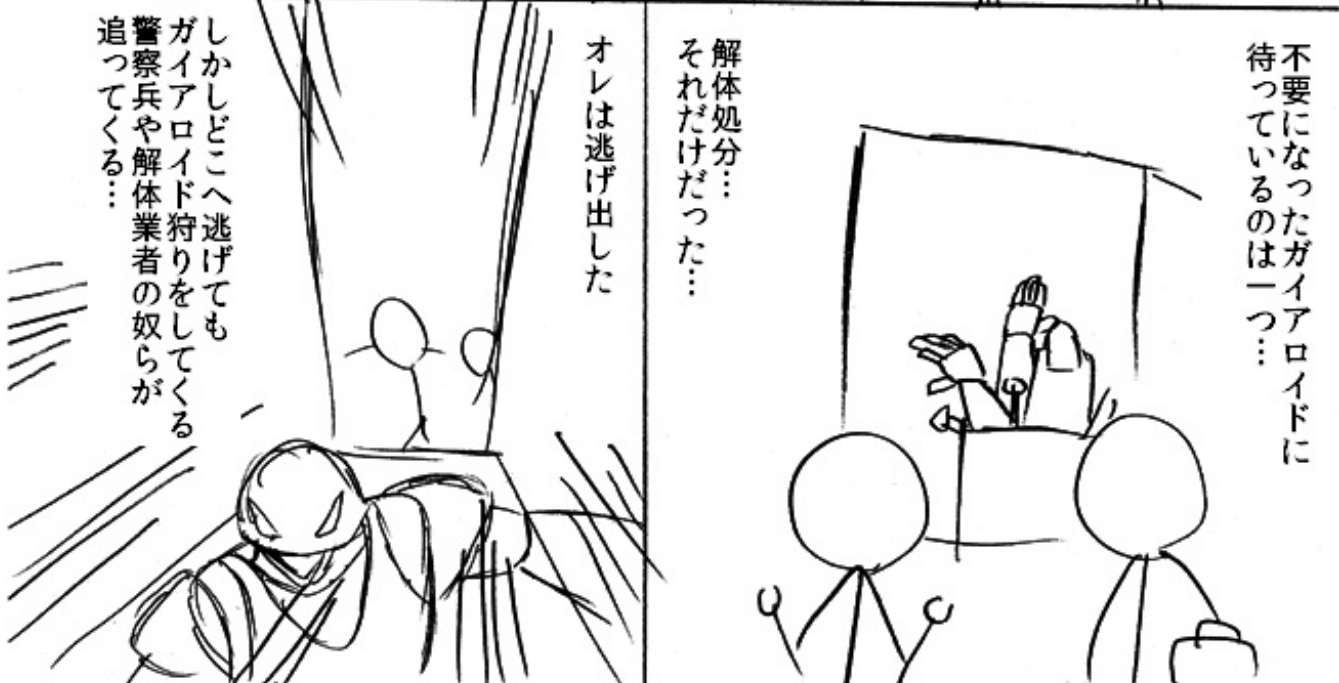
買い手が見つからず一人残っちゃった...

そして...

悪いな  
バレル...

明日お前を中古パーツ専門業者が回収に来る...

うちの会社にこれ以上ガイアロイドはいらないんだ...

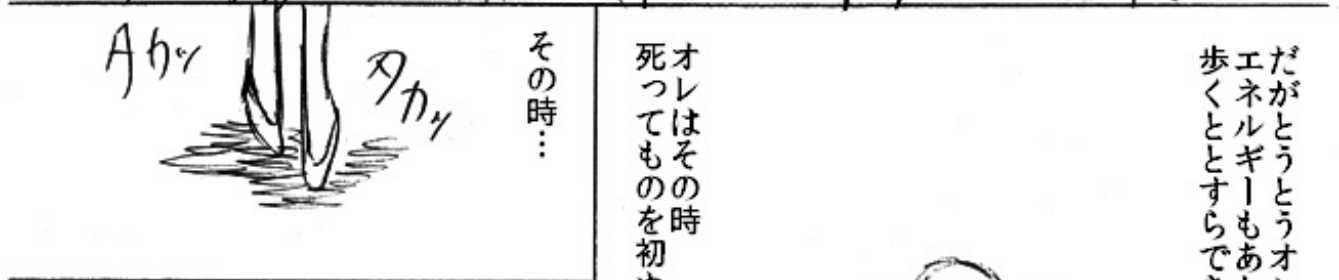


不要になったガイアロイドに待っているのは一つ...

解体処分...  
それだけだった...

オレは逃げ出した

しかしどこへ逃げてもガイアロイド狩りをしてくる警察兵や解体業者の奴らが追ってくる...



その時...

アッ

ダッ



だがとうとうオレのエネルギーもあとわずかとなって歩くととすらできなくなった...

オレはその時死つてものを初めて覚悟した...

あ?

ズッ

そこのガイアロイドさん...

少しですが  
どうぞ食べてください



おながが  
すいているんでしょ…



金もピター一文  
持っていない…  
アンタに何も返せない…



お嬢さん…オレは  
見ての通りの  
野良ガイアロイドだ…



さ、召し上がれ



おながのすいている人は  
決して見捨てません  
それが誰であっても…



いいえお返しは  
結構です…



じゃ少しだけ…



メチャクチャ  
うめエーッ

なっ…  
何だコレ!?



いただきます…



見つけたぞ  
バレル!!!



こんな美味しいモン  
初めて食った  
ぜエーッ

その人のくれた弁当の味は  
オレに元気を  
生きる希望をくれた



チクシヨ  
捕まっただまるかーッ



逃げる!!!

逃げたぞ  
追えー

あッッ…



見つけたぞ  
捕まえるーッ

今回こそ  
今回こそはッッ

ゲッ  
やべエエ



結局彼女にはちやんと  
お礼を言えずに行つちまって  
弁当のハシも持つていつちまった...

オレは彼女から生きる気力と  
本当の優しさをもらって助けられた...

そしてオレは彼女を絶対に見つけ出して  
お礼を言うことを誓った...



そんなことが...

パレル君  
そのハシ見せて  
くれないか?

.....

?



...やっぱり  
間違いない...

ど、どうしたの  
パパ急に...

ガサ ゴン...

たしか  
この辺に...

?



あつた...!!!

そ、その  
ハシは...?

ガサッ



全く同じ…  
どうしてアンタが  
これを…

それはこの世に  
一つしかない  
大切なハシ…

そして  
これを…



私の  
妻だ…

彼女の名は  
「恵」…

間違いねエ…  
あの人だ…  
オレの恩人…

こ、この真ん中の  
女の人…



恵はかつてこの店で  
私やころもと一緒に  
幸せな生活を送っていた…

だが彼女は5年前  
突然行方をくらまして  
しまった…  
私ところもを残して…

ちよ…ちよつと待てよ!  
それつてつまり  
オレの恩人は…

あんたの妻で…  
ころもの母親…?

…

だが君と妻が  
出会ったのは5年前…

今も生きて  
いるか  
日本に  
いるか  
どうか…



地震か!?

な、何だ?



うわあ

キヤア!!

この  
揺れは…



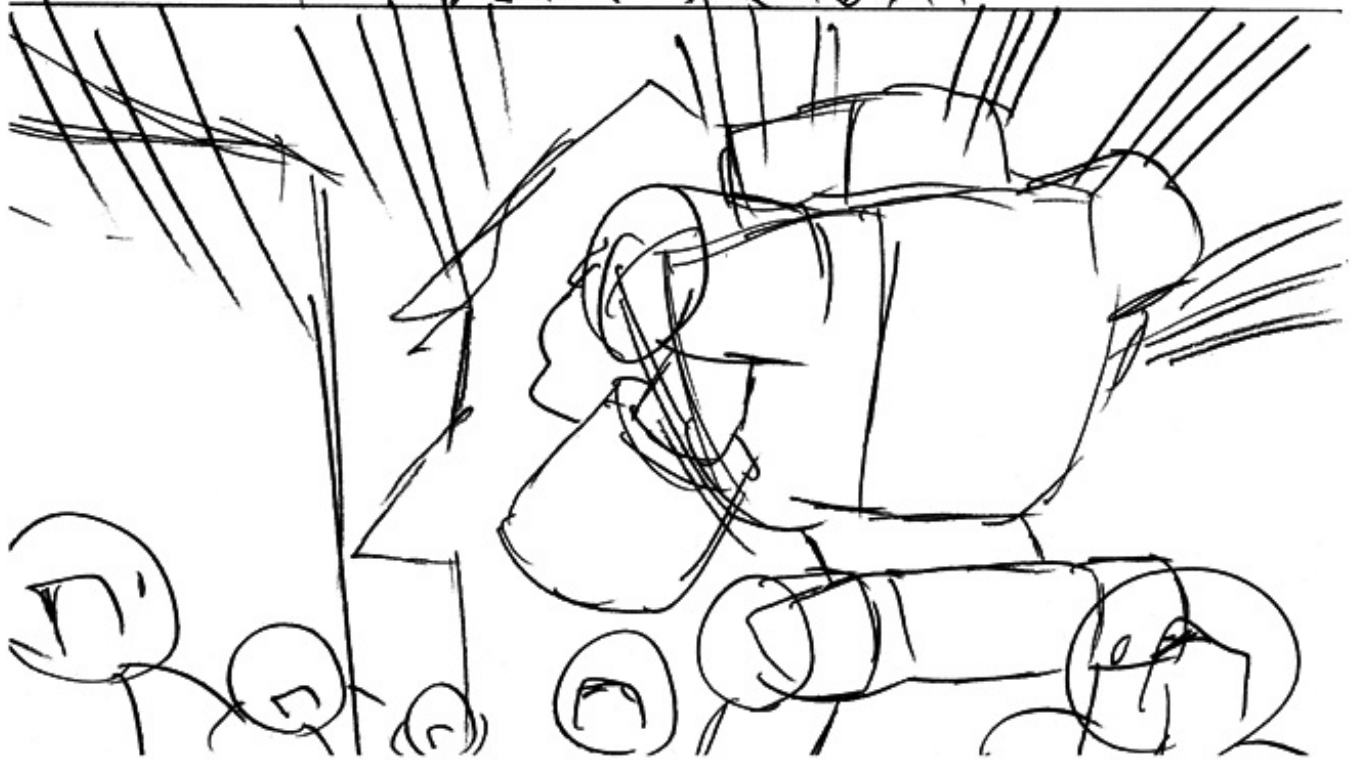
違う…

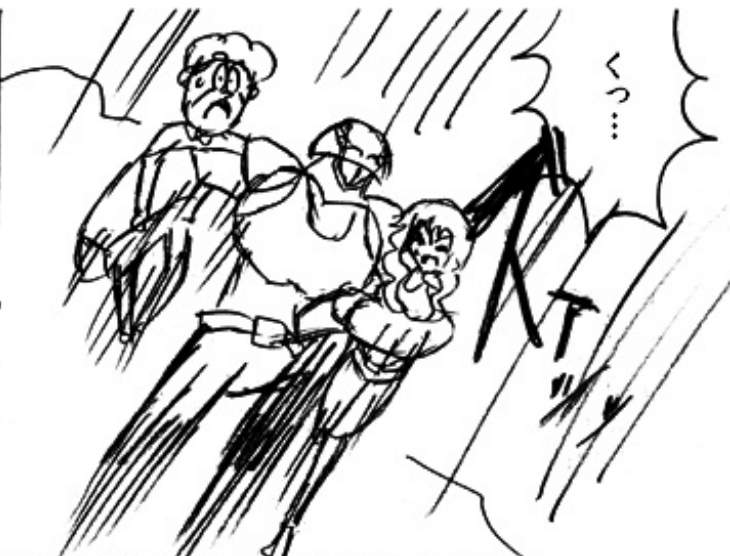




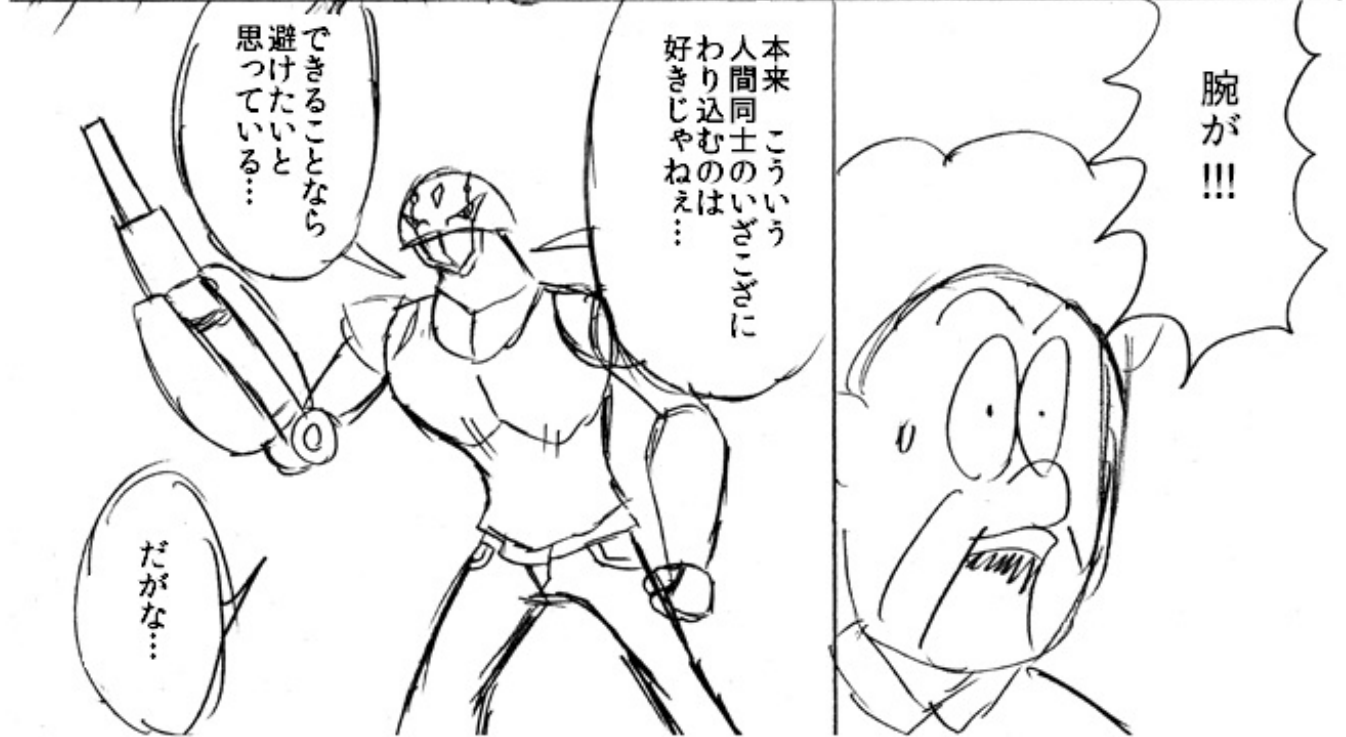
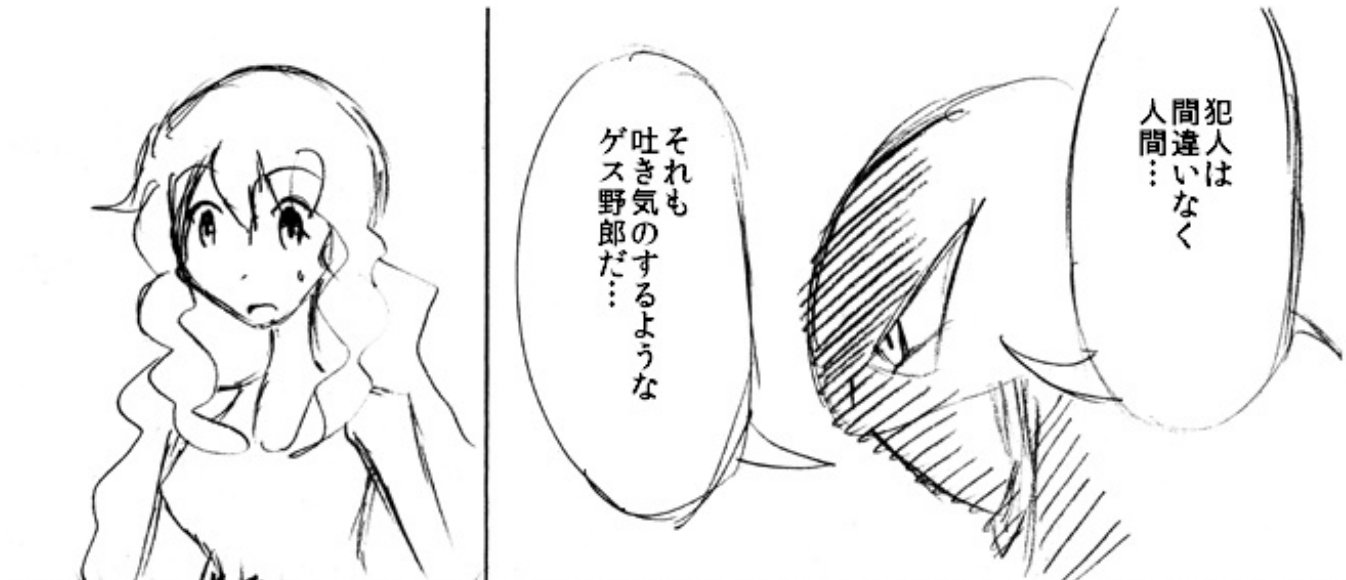
この  
ロボットは!!

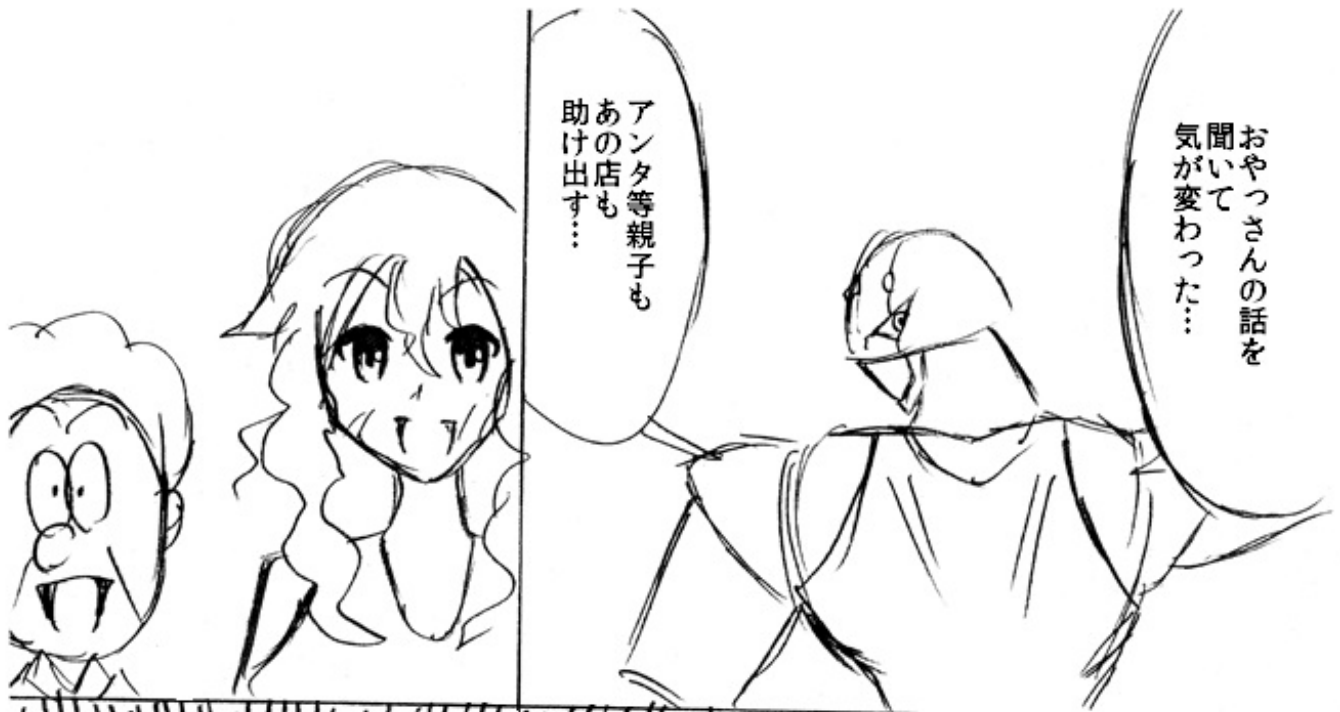
な…何だ!?











おやっさんの話を  
聞いて  
気が変わった…

アンタ等親子も  
あの店も  
助け出す…



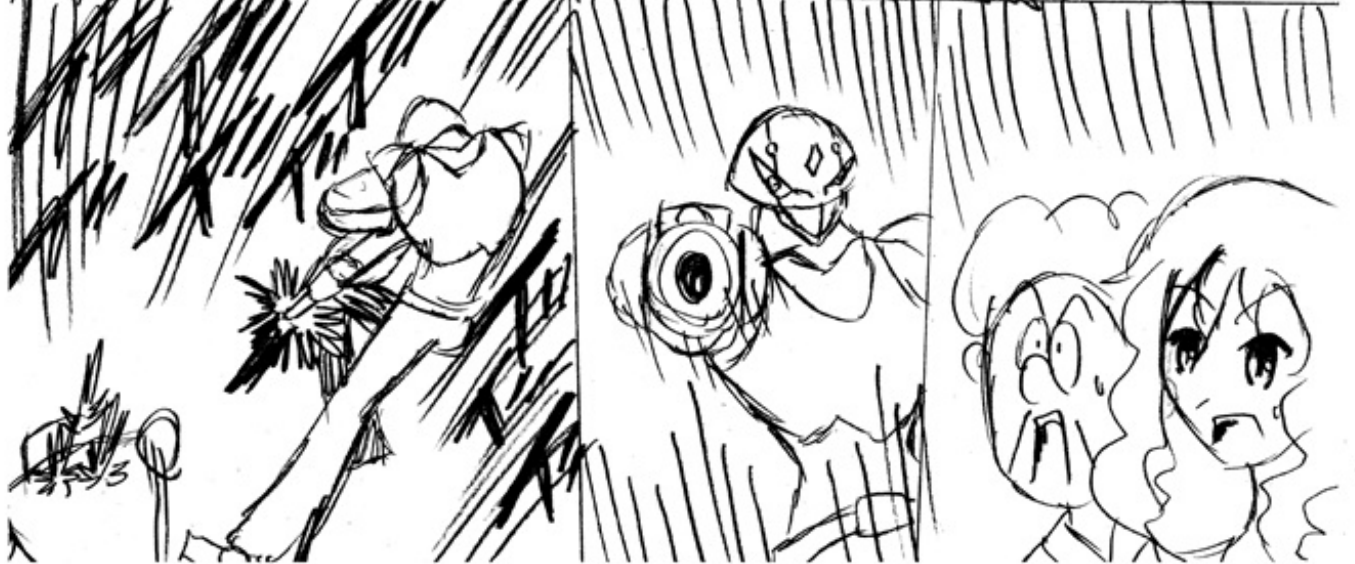
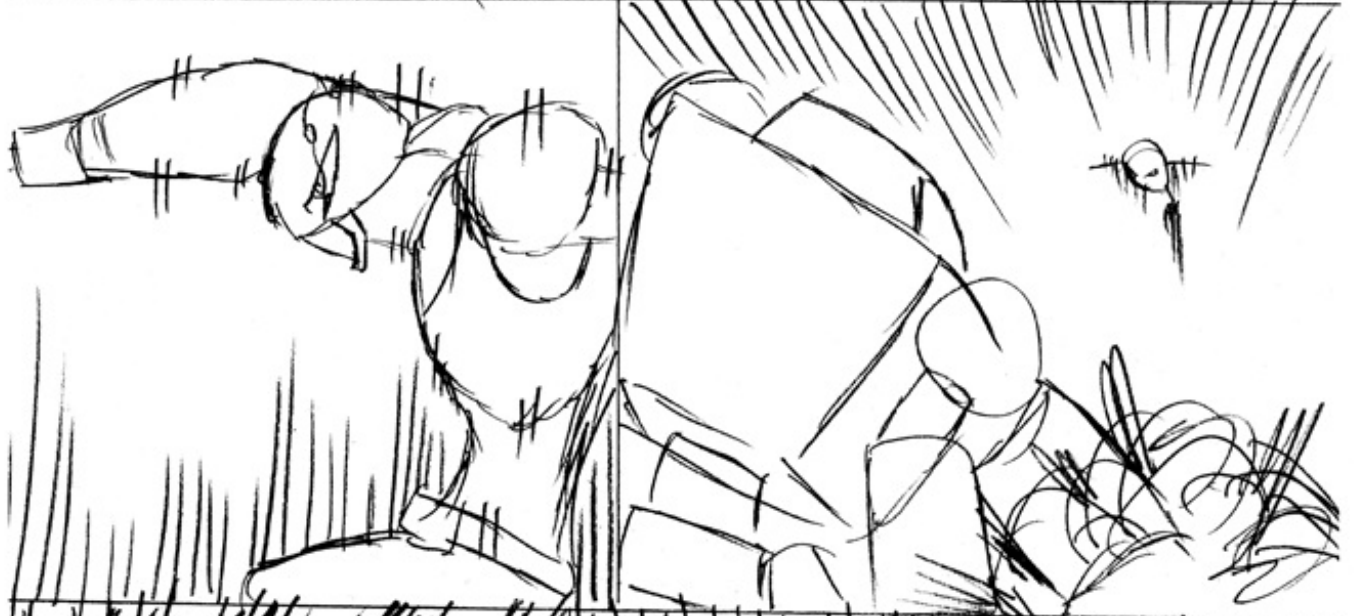
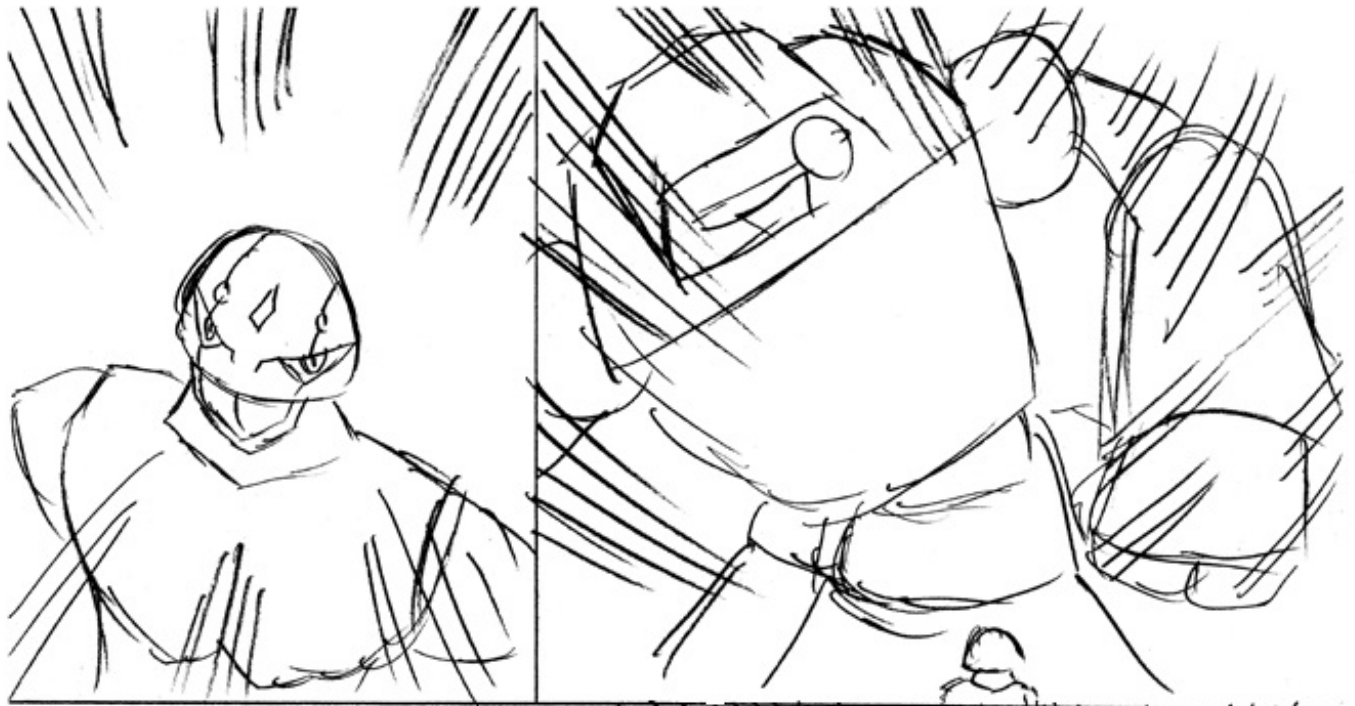
ギギギ

ウグウグ



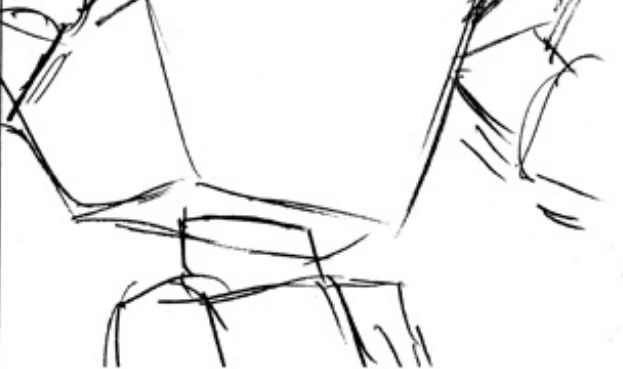
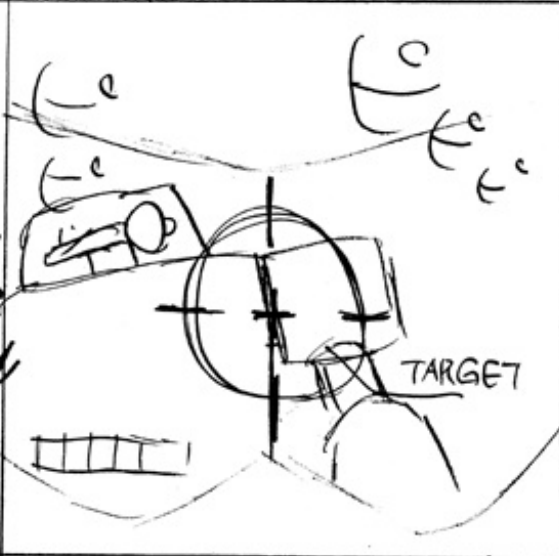
来いよ この  
デカブツ…!

5分でスクラップに  
してやるぜ!!





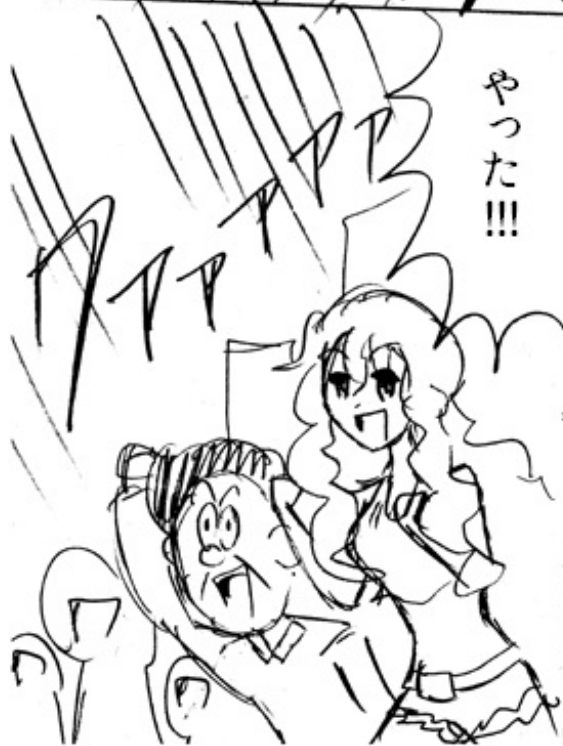
やはり作業用だから  
一筋縄では  
行かエか...



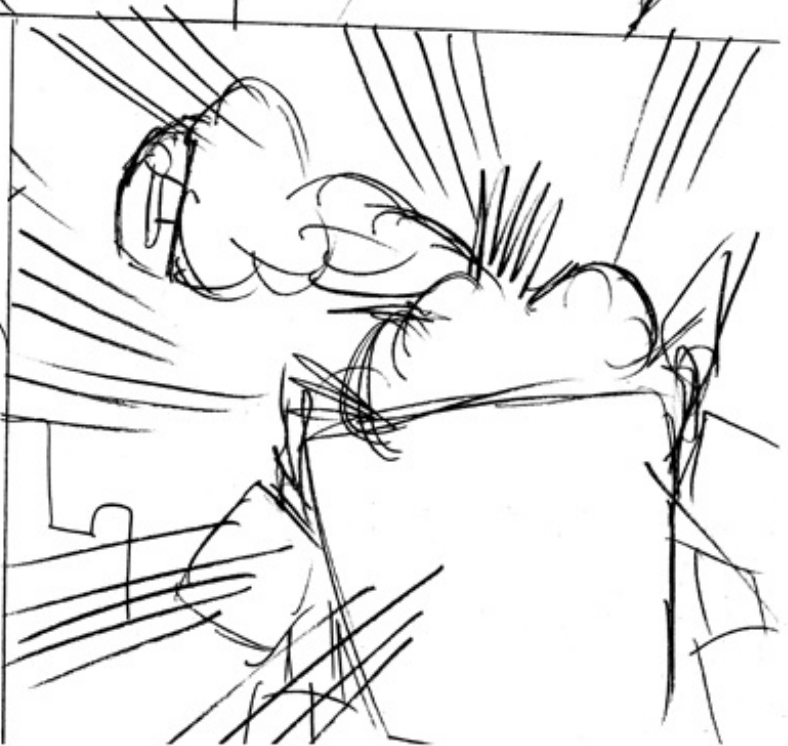


見せてもらおうか  
テメーのツラ…

顔面ひっぺがして  
やらあ…



やった!!!





…と言っても  
お前だと最初から  
思ってたがな…

やっぱりか…



このデカブツは  
コンテナとかの  
資材運搬用…  
こんなの持つてるのは  
デカイ企業…

そんなのは  
こちら辺では  
アンタの  
デパートにしか  
いない

ころもから  
聞いたぞ

あんたこの地区の  
デパートの店長なんだろ…



下道悪彦

ぐっ…



そうじゃないのか  
下道悪彦…?



だからコイツで  
ここを襲つても疑われるのは  
アンタじゃなくて  
ロボットの管理会社…

このロボットは  
アンタの会社の所有物だが  
こいつの管理をしているのは  
別の会社…

こ、この  
野良ガイアロイドが！

おれの邪魔ばっか  
しやがって…

もう何をしようが  
お前の負けだ…

スッ…

一緒に来て  
もらおうか…  
ころも達に謝ってもらうぜ

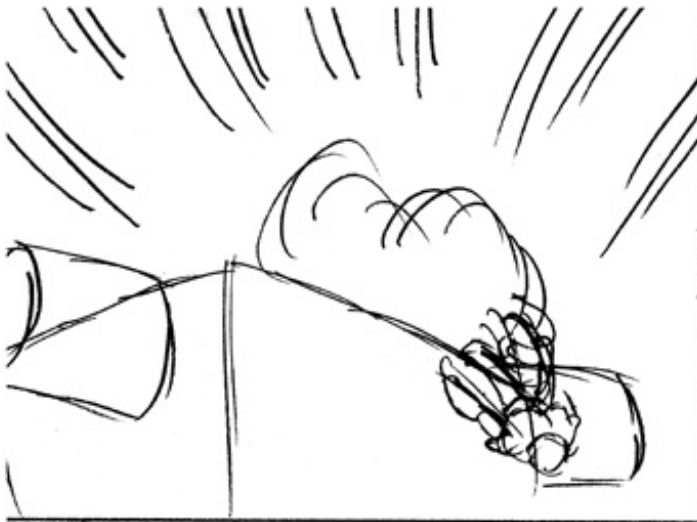
だ、誰が  
謝るもんか…あんな…

あんな貧乏そうさい屋の  
貧乏人親子なんか…

誰が  
謝るかア…



ああああああ  
ああああ

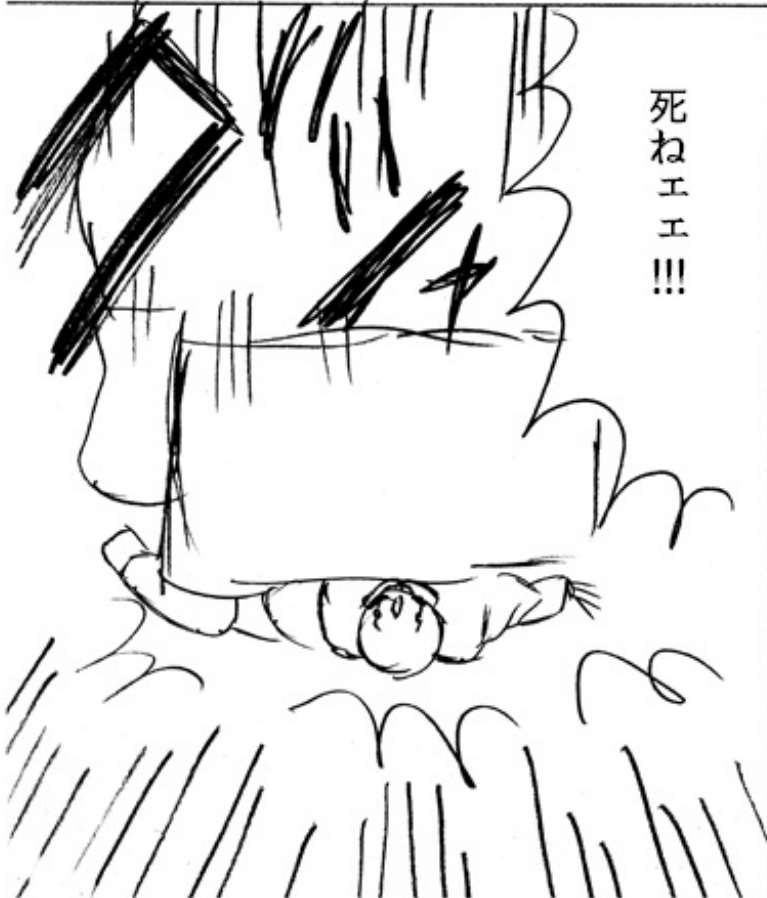


ハハハハ  
やったやった

ガイアロイド用の  
強力スタンガン  
を持ってきて  
正解だったぜ!!



バレル!!



死ねエエ!!!



ククク  
これで終わると  
思うなよ...

お前は完全に  
ブツ壊してやる...





誰がやめるか  
ボケエエエエ



オレも終わりだが  
こいつも終わりだ  
道連れにしてやるウー



死ねエ  
死ねエ  
死ねエ

パレルお願い  
起きてエ



こんな所で死ぬなんて  
私絶対  
許さないんだから!!

まだやる事が  
残っているでしょ



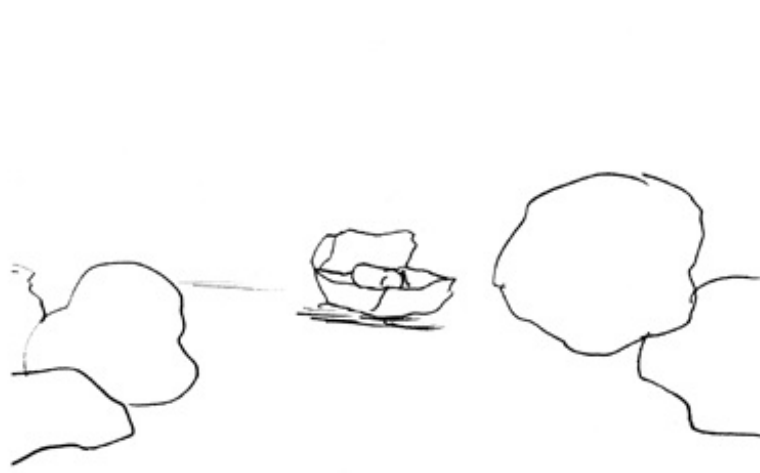
恩人に...  
私の母さんと会って



母...親...



メ...グ...ミ

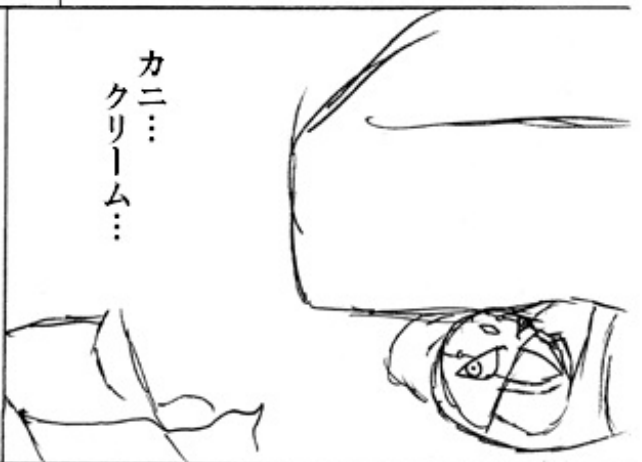


恵…さん…

少しですが  
どうぞ食べてください…



おなががすいているんでしょ？



カニ…  
クリーム…



ガカガカ



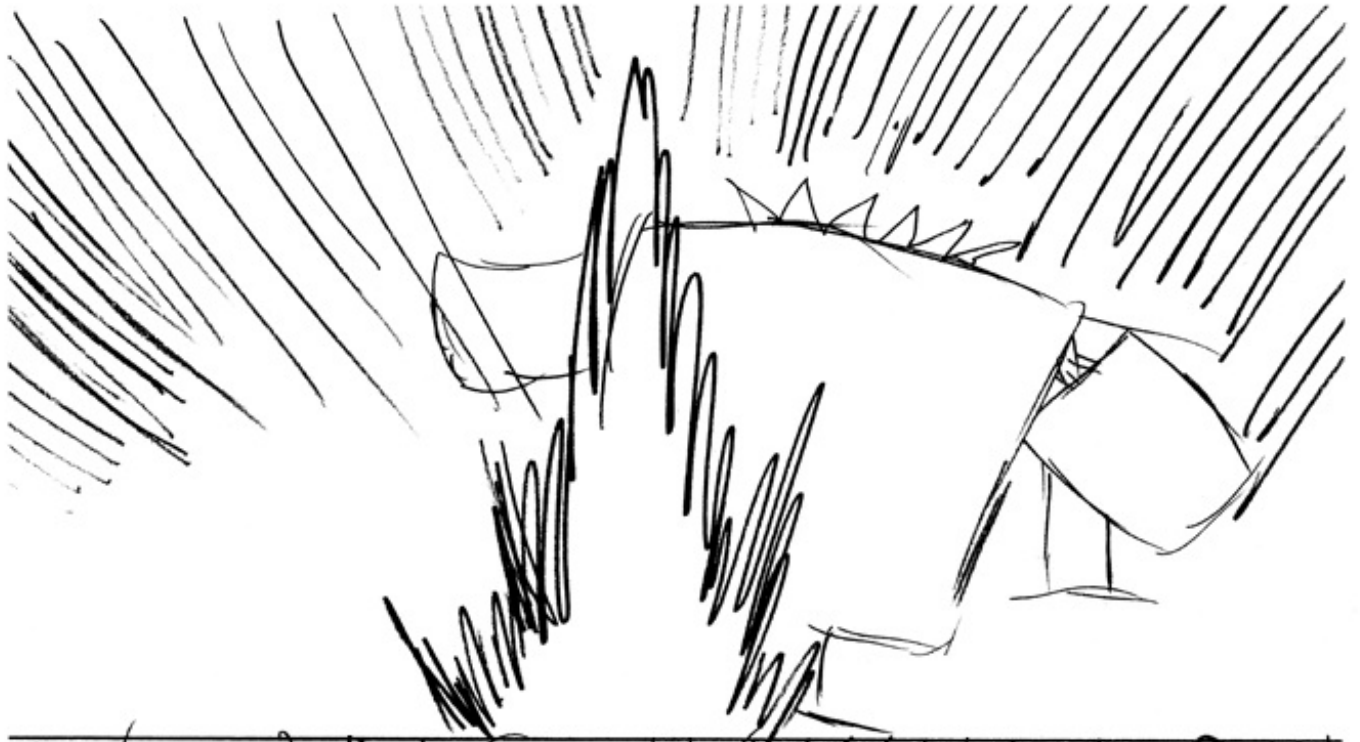
いただき  
ますッ



あんたに…  
あんたの家族に  
助けてもらったぜ…



恵さん…  
また借りを  
作っちゃったな…

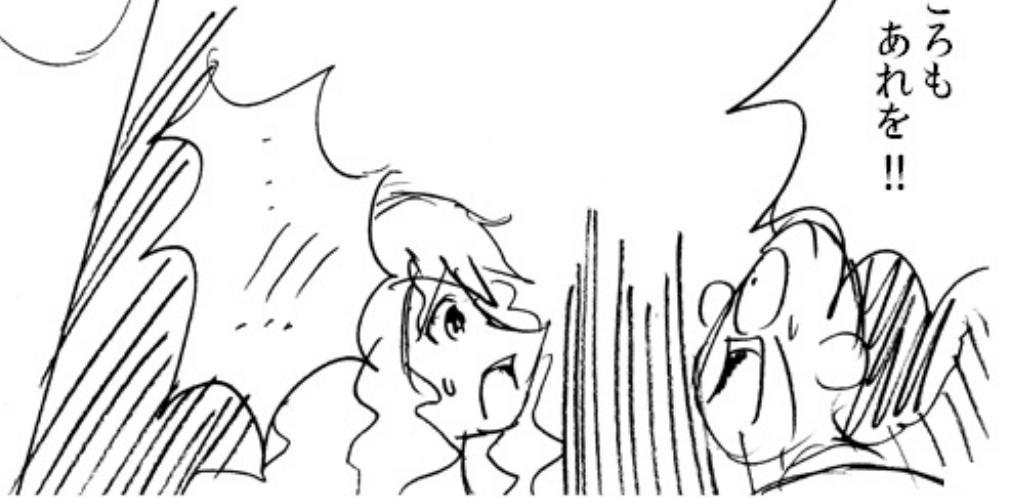


オレは  
死なない…



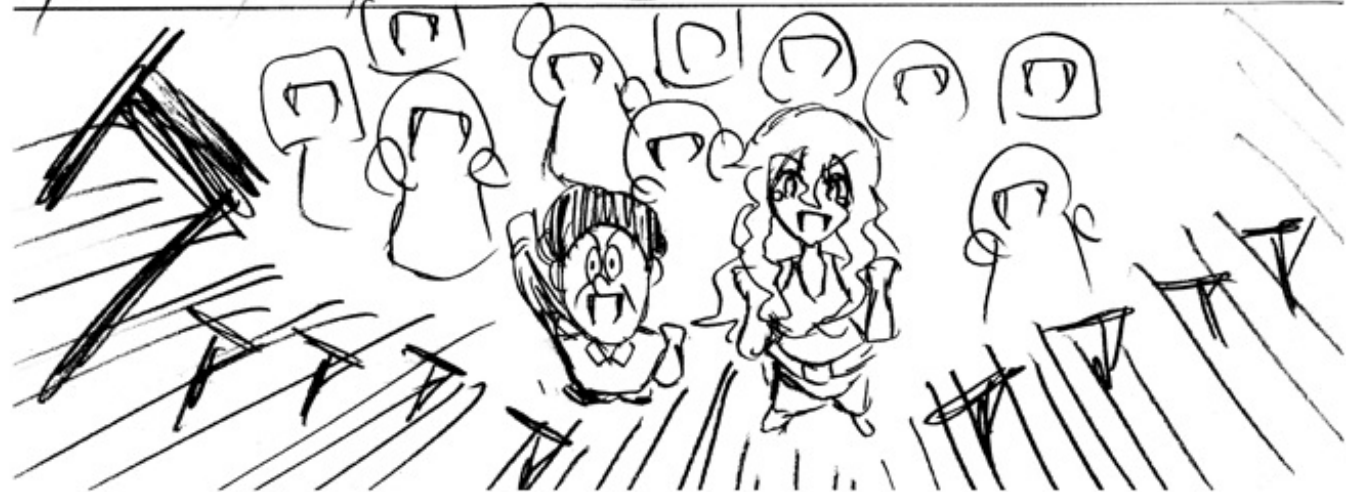
ころも  
あれを!!

オレを  
生かしてくれた  
人の為にも…





オレは  
生きる!!

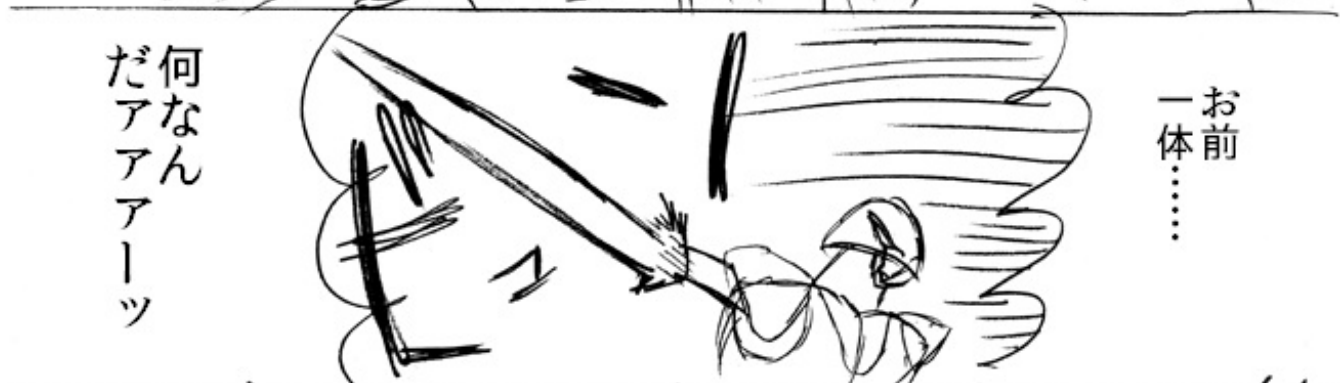




なっ…そつ…  
そんなバカな…

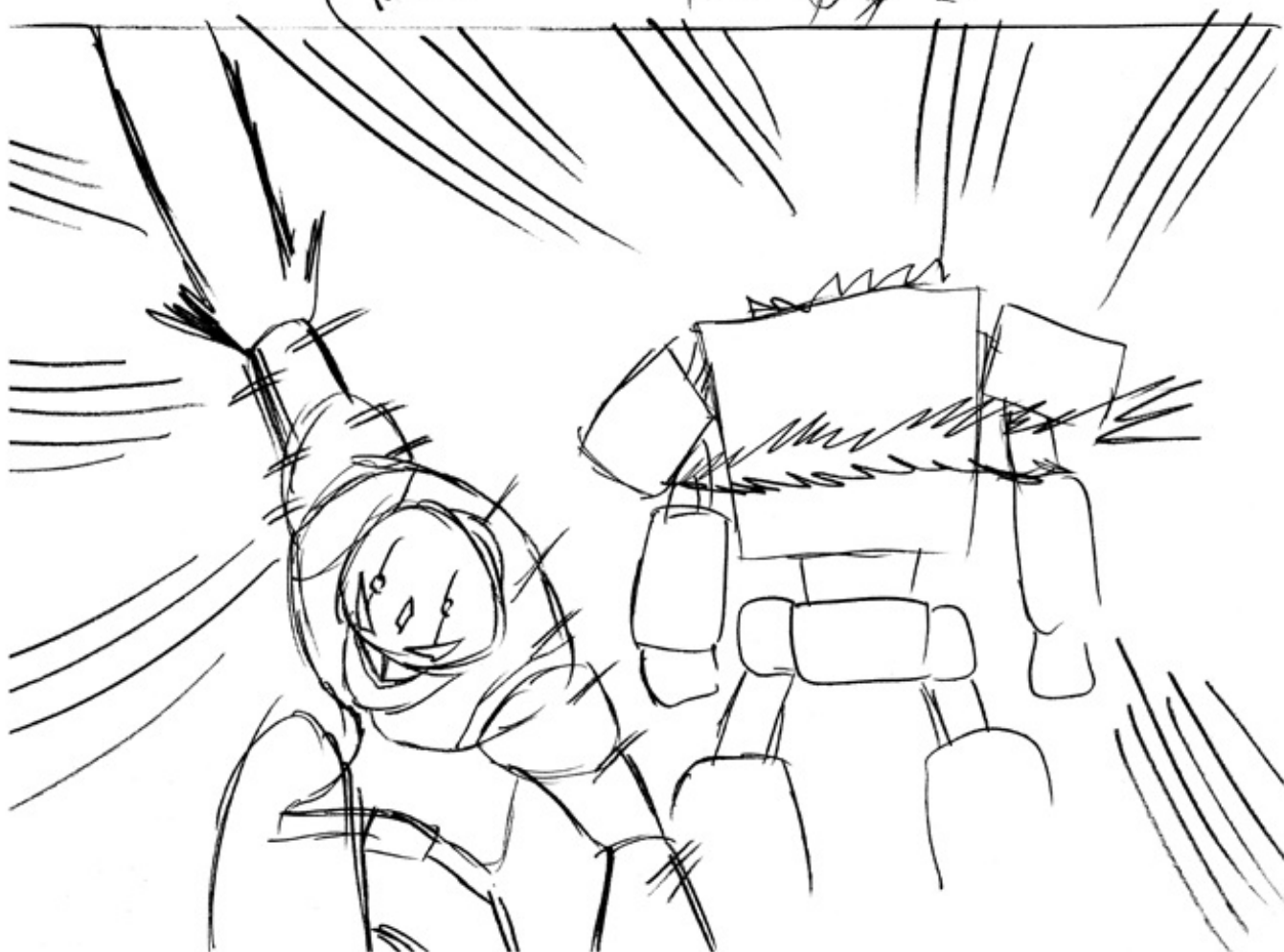
完全に…完全に…  
ブツつぶしたはずなのに…

何で何で  
動けるんだ!!!



お前  
一体……

何なん  
だアアアーツ

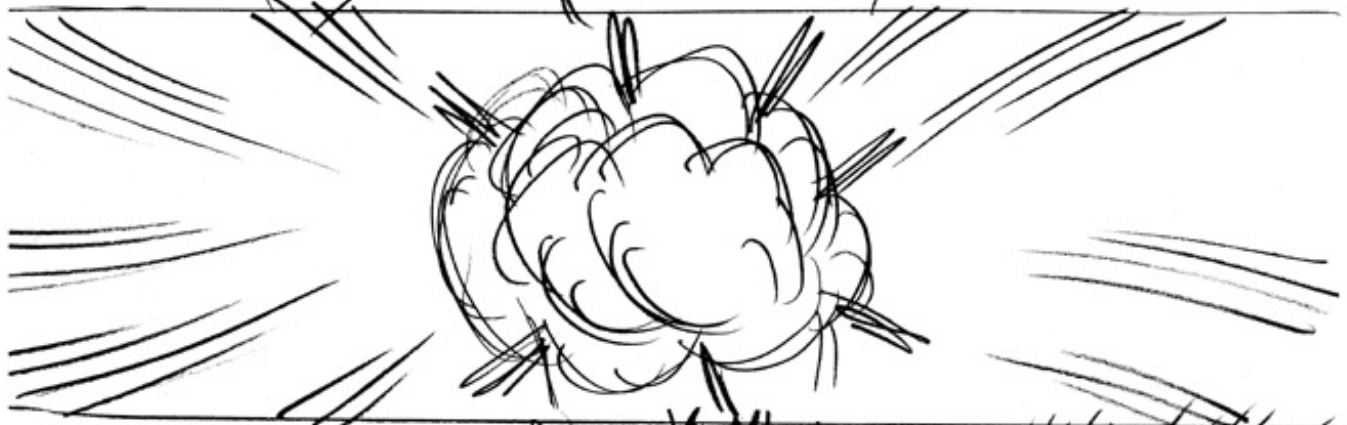


オレは  
デリカ戦士だ…

モジャ

優しい人間と  
優しい味の食い物に  
明るい明日を提供する  
ガイアロイドさ…

ガッ



ギョッぱアッ



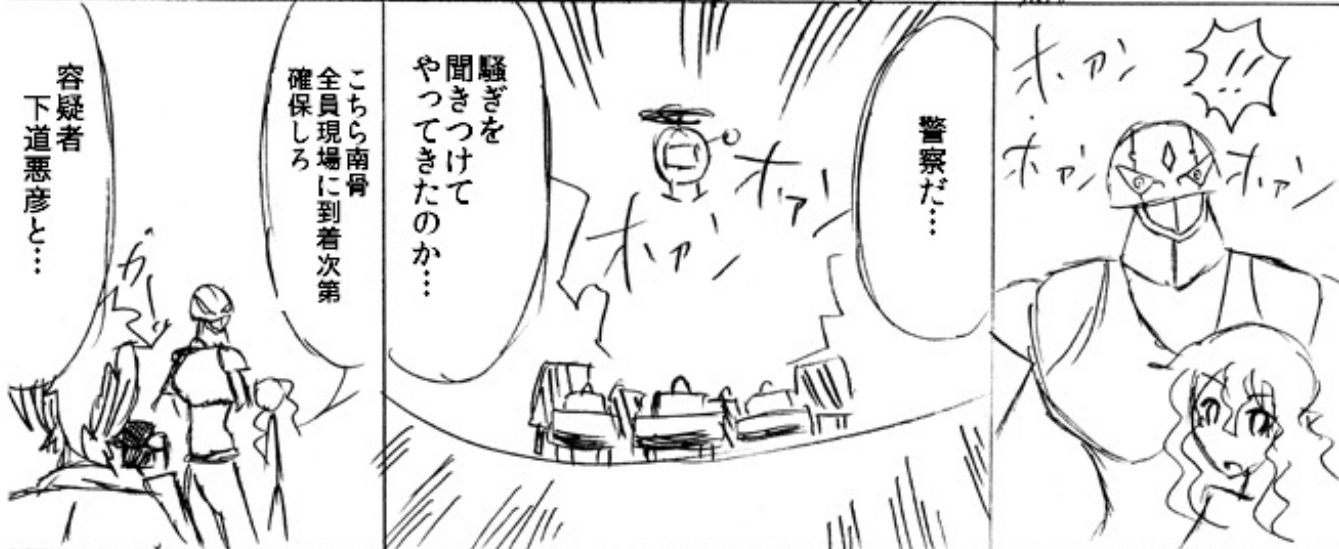


もう大丈夫だ  
クレイマー野郎は  
オレがおっぱらってやったぜ

パレール...

ころも!

パレールーツ!!



容疑者  
下道悪彦と...

こちら南骨  
全員現場に到着次第  
確保しろ

騒ぎを  
聞きつけて  
やってきたのか...

警察だ...

ホァン!!



...え?

バラット・レシルを...

違法ガイアロイド...

オレは警視庁  
「ガイアロイド課の警部  
「南骨」…

5年間野良ガイアロイド狩りにも  
捕まらず逃げ続けている  
バラットをずっと追っていた…

まさか休暇で立ち寄ったこの町で  
お前を見つけられるとは  
思わなかった…

こんな大事に  
なってしまうなんてことを  
思わなかった…

パレル…  
お前は  
ガイアロイド管理法違反に

違法改造と  
武装所持のほか  
様々な法に違反している…

もうその体では  
満足に動けまい…

一緒に  
来てもらうぞ

そんな…

パ、パレル君は  
体を張って私たちを  
守ってくれたんだぞ  
なのに…

おやつさん…  
もういい…

なのに…  
こんな…

パレル!!

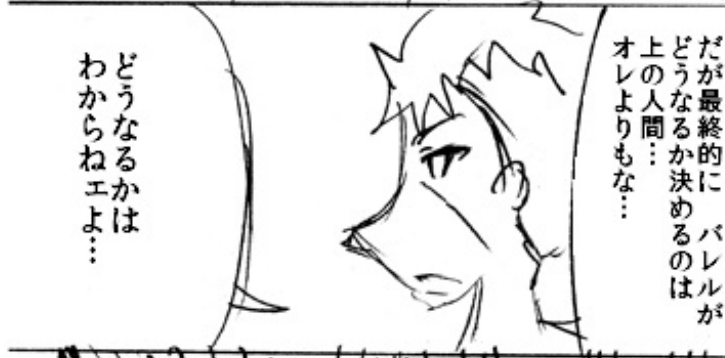
ガッ! ガッ!  
ガッ!

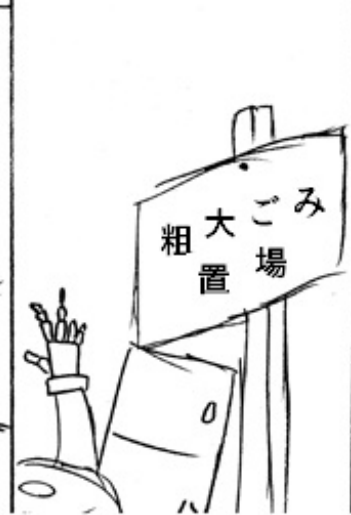
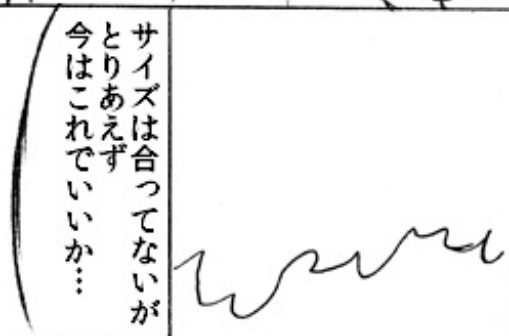


パレル君?











お前がオレに何を言いたいか大体分かるが...

悪いことは言わねエオレに関わるな...

お前にはこの町で父親と一緒に平和に暮らす方がいい...

オレと一緒にいたらお前の身が持たねエよ...

オレは社会から否定されてる野良ガイアロイド...どこに行っても敵だらけ...



そんな物いらん!!!

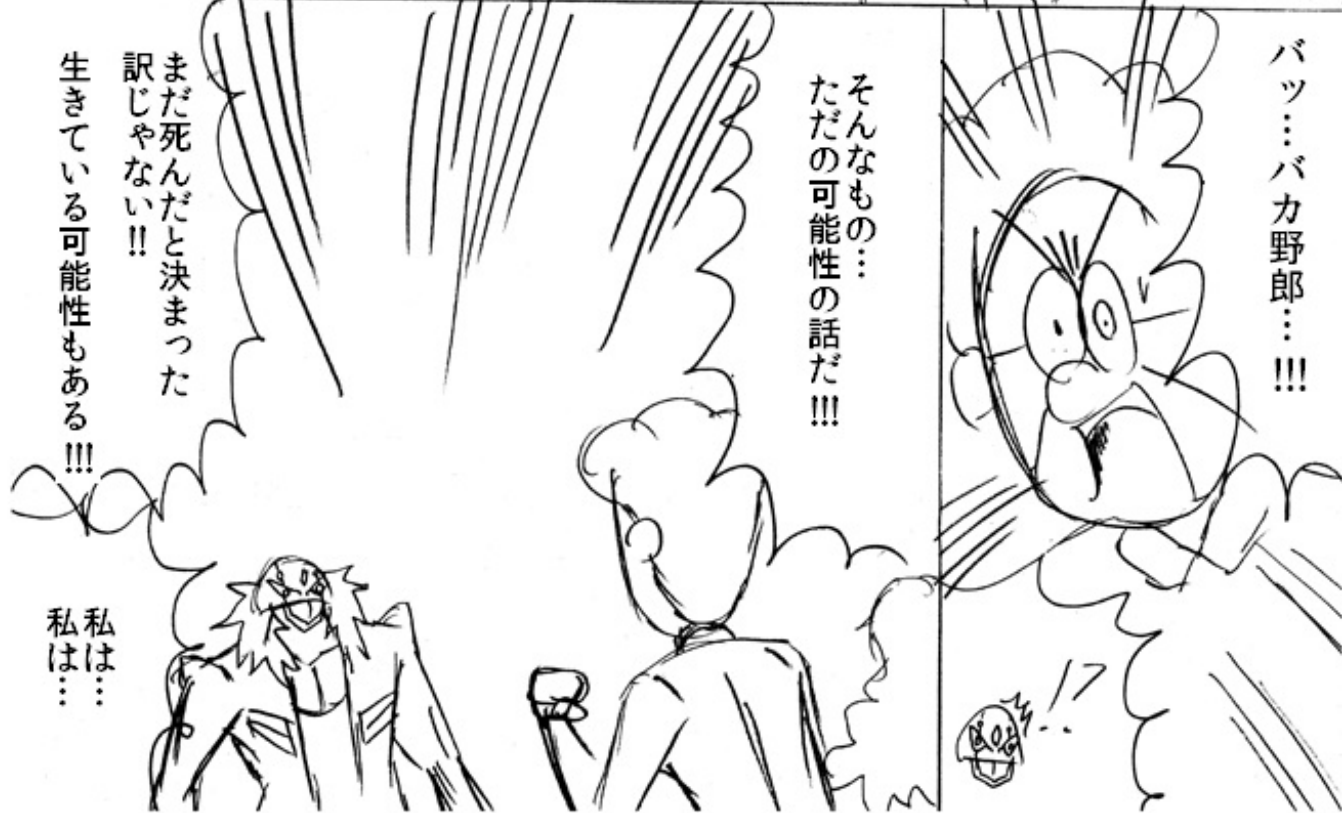
...オイオイ

じゃな ころも... 親父と元気で...

今日のメシ代だ そいつを持って親父の所に戻れ...

言っておくがそれはオレが自分で稼いだ金だぜ...





私は生きてる可能性を  
信じる!!

妻は絶対に  
生きてる!!!

パパ...



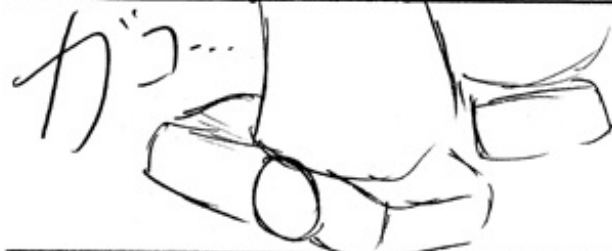
やっとなつかんだぞ  
妻の行方の手がかりを  
逃してたまるか!!!

…アンタは  
まともな人間かと  
思ってたが…

予想外の…  
スパーバカ  
だったみたいだな…



たとえ君が  
ダメだと言っても  
私たちはついて行くぞ!!



バレル!!  
バレル!!  
バレル…

シヤク

…毎日だ

え…?

毎日…って  
何が…?





見つけたぞ  
パレルウウウ



うげっ!!

この声...

まさか...

南骨警部!!

お前らー  
オレから逃げれると  
思うなよーッ!!!



ころも  
行くぞ!!



うん!!

おやっさん  
荷物持ってくれ!!

重ッ!!!



待っててくれよ 恵さん...  
皆で会いに行くからな...

よーし  
行くぜ!!!

恵ーッ!!!



待てーッ



## デリカ戦士（ネーム版）

<http://p.booklog.jp/book/49267>

著者 : Tosi104

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/tosi104/profile>

作品一覧 : <http://p.booklog.jp/users/tosi104>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/49267>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/49267>